

神経ブロック療法、より安全に

超音波見ながら注射

局所的な痛みを緩和するため神経そのものの機能を一時的にまひさせる神経ブロック療法で、超音波（エコー）検査装置で体内を見ながら麻酔薬を注射する方法が普及しつつある。導入している神戸市内の開業医によると、エックス線による骨を中心とした

従来の画像に比べ、神経や血管などが詳細に映るエコーの方がより安全で正確な治療ができるという。開業医らは7月1日から京都市で開かれる日本ペインクリニック学会大会で、自らの経験を報告する。

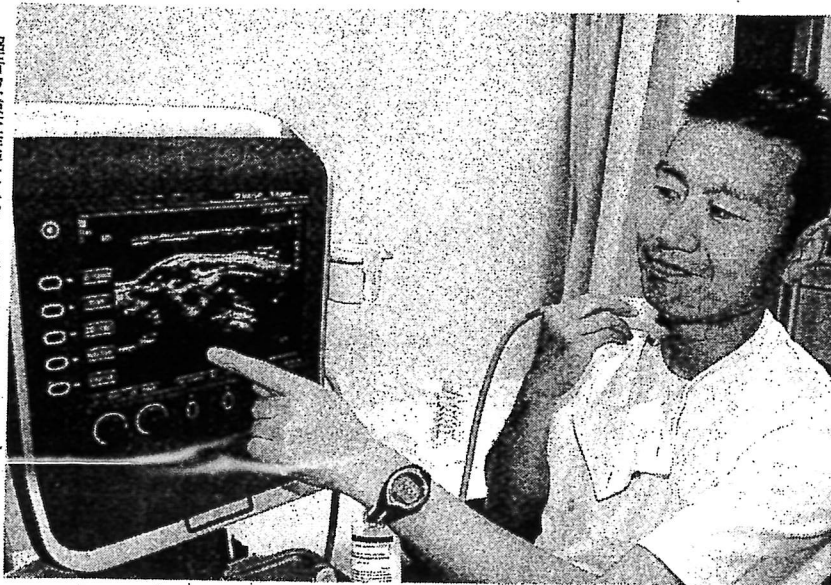
（金井恒幸）

なごなどから、ペインクリニックではまだ定着したとはいえない状況だ。朴院長は普及を進めるため、これまでにエコーを使った神経ブロックなどについての本も共著で出版。「患者さんにとっての有益な治療法の一つ。今後も利用を呼び掛けたい」と話す。

神戸の開業医、学会発表へ

高価な装置、普及に壁

ペインクリニックは、頭痛のほか、エックス線を使うのや神経痛、腰痛など、外傷を除く全身の痛みの緩和が専門の診療所や病院診療科。知覚神経や交感神経などに局所麻酔薬を注射し、血行を改善したり痛みを和らげたりする神経ブロックを中心に行う。注射の位置を特定するには触診



超音波検査装置を試す朴基彦院長＝神戸市中央区御幸通6

るNIT東日本関東病院（東京）に2004年から勤務し、エコーを使った神経ブロックに出合った。08年には神戸大医学部付属病院に移り、エコーの導入を推進。今年2月に開業したが、神戸大と同クリニックでエコーを使った神経ブロックを千例以上経験してきた。

朴院長はエックス線を使う場合もあるが、「特に首などに注射する際、神経と血管が近いので、血管が映像で分かるエコーの方がより安全にできる」と話す。エックス線のよくな被ばくがなく、手術の全身麻酔で針を血管に入れる際にも使われつつある。

ただ、エコーは小型でも1台数百万円するところ、技術の習熟には一定の訓練が必要